

# 2020年度 南越前町農業再生協議会 水田フル活用ビジョン

## 1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

当町の農地の利用状況は、稲作を中心に大麦、大豆、そばによる水田農業が営まれているほか、特産品である花ハスや梅、水仙を栽培しており、大麦、大豆、そばについては、2年3作のブロックローテーションによる作付を推進している。

しかし、山間部における農地の集積、集約化が難しいことや担い手の高齢化等のため、農業算出額の減少傾向が続いている。また、鳥獣害による農作物の被害の増大や、中山間地域の耕作条件の良くない農地の荒廃化が懸念されている。

今後は、2年3作体系をさらに発展させ、大麦、大豆、そばの収量を高めるとともに、不作付地や排水不良田における飼料用米の作付を推進し、生産性向上と農業者の収益の増大を図る必要がある。

また、農地中間管理事業を活用した農地の集積、集約化や集落営農の組織化、法人化を進め、農業生産の省力化とコスト低減による一層の農業所得の向上を図る必要がある。

## 2 作物ごとの取組方針等

### (1) 主食用米

米の需給と米価の安定を図るため、生産数量目安に沿った生産を実施する。また、地域の需要に応じた生産体制の構築を図り、不作付地への主食用米の作付を促進し、水田のフル活用を目指す。

また、5月半ばの適期田植え等を継続するとともに、土壌分析に基づく適切な土づくりや特別栽培米の取組推進により1等米比率を高め、食味検査に基づく施肥改善と区分集荷により、福井県産米の評価向上を目指す。

### (2) 非主食用米

#### ア 飼料用米

近隣の畜産農家の需要を満たすため、生産農家と畜産農家の意向を踏まえ、需要に応じた生産を進める。また、多収品種の導入と区分管理により、作期分散と農家所得の確保を図る。

### (3) 麦、大豆、飼料作物

大麦、大豆については、実需者ニーズに即した生産量と品質を確保するため、集落を基本としたブロックローテーションによる大麦+大豆、大麦+そばの周年作の推進とあわせ、湿害を回避するための排水対策や団地化栽培を進めるとともに、機械の導入による省力化・機械化体系を構築し、収量や品質の向上に努める。

### (4) そば、なたね

そばについては、大麦+そばの周年作を推進するとともに団地化による生産コストの低減化を推進し、農業者の所得確保を図る。また、適期播種、適期収穫及びほ場内排水溝の本数を増やすなど排水対策を徹底し、安定した収量・品質を確保する。

(5) 高収益作物（園芸作物等）

農家の所得向上を図るため、県が指定する推進品目を重点的に支援し、新たな産地育成を図るとともに、産地の維持・拡大を図り、地域農業の活性化を図る。

(6) 畑地化の推進

取組なし

**3 作物ごとの作付予定面積**

作物	前年度の作付面積 (ha)	当年度の作付予定面積 (ha)	2020年度の作付目標面積 (ha)
主食用米	648	600	600
飼料用米	41	47	50
米粉用米	1	1	0
新市場開拓用米	0	0	0
WCS用稲	0	0	0
加工用米	0	0	0
備蓄米	15	0	0
麦	29	33	40
大豆	11 (うち二毛作 0)	12 (うち二毛作 0)	15 (うち二毛作 0)
飼料作物	0	0	0
そば	61 (うち二毛作 30)	68 (うち二毛作 33)	70 (うち二毛作 35)
なたね	0	0	0
その他地域振興作物			
野菜			
・重点推進品目 ねぎ	1	1	2
キャベツ タマネギ 等	3	3	5
・一般推進品目 きゅうり トマト 枝豆 等	10	15	15
花き			
・一般推進品目 花ハス 等	10	15	15
果樹			
・重点推進品目 ブドウ	1	1	1

#### 4 課題解決に向けた取組及び目標

整理 番号	対象作物	用途名	目標	前年度（実績）	目標値
				(2019年度)	(2020年度)
1	そば	そば団地化支援	団地化面積 労働時間 収量	35.6ha 2.3時間/10 a 27kg/10 a	36.5ha 2.0時間/10 a 50kg/10 a

※ 必要に応じて、面積に加え、取組によって得られるコスト低減効果等についても目標設定してください。

※ 目標期間は3年以内としてください。

#### 5 産地交付金の活用方法の明細

別紙のとおり

別紙

## 産地交付金の活用方法の明細

1. 地域農業再生協議会名

南越前町農業再生協議会
-------------

2. 活用予定額の総括表

(単位:円)

協議会等名	配分枠 (A+B)		活用予定額
	当初配分 (A)	追加配分 (B)	
南越前町農業再生協議会	1,642,000	1,642,000	1,642,000

(注)追加配分が未定の段階にあつては、該当箇所を空欄により作成することとします。

3. 活用方法

配分枠

1,642,000円

整理番号	用途 ※1	作期等 ※2	単価① (円/10a)	面積 (a単位)※3														合計 ② ※5	所要額 ①×② (円)		
				戦略作物							新市場 開拓用米	そば	なたね	高収益作物						雑穀	その他
				麦	大豆	飼料作物	米粉用米	飼料用米	WCS用稲	加工用米				野菜	花き・花木	果樹	その他の 高収益作物				
1	そば団地化支援	1	4,500									1,759							1,759	791,500	
1	そば団地化支援(二毛作)	2	4,500									1,890							1,890	850,500	
合計(基幹)※4			実面積									1,759							1,759	1,642,000	
合計(二毛作)※4			実面積									1,890							1,890	※6	

- ※1 二毛作及び耕畜連携を対象とする用途は、他の設定と分けて記入し、二毛作の場合は用途の名称に「〇〇〇(二毛作)」、耕畜連携の場合は用途の名称に「〇〇〇(耕畜連携)」と記入してください。  
ただし、二毛作及び耕畜連携の支援の範囲は任意に設定することができるものとします。  
なお、耕畜連携で二毛作も対象とする場合は、他の設定と分けて記入し、用途の名称に「〇〇〇(耕畜連携・二毛作)」と記入してください。
- ※2 「作期等」は、基幹作を対象とする用途は「1」、二毛作を対象とする用途は「2」、耕畜連携で基幹作を対象とする用途は「3」、耕畜連携で二毛作を対象とする用途は「4」と記入してください。
- ※3 「面積」は、当初配分により支援を行う用途について記入し、追加配分により支援を行う用途については、追加配分額が未定の段階にあつては空欄としてください。
- ※4 「合計(基幹)の実面積」は、基幹作を対象とした設定の実面積を記入し、「合計(二毛作)の実面積」は、二毛作を対象とした設定の実面積を記入してください。  
また、「合計②」欄は、基幹作、二毛作それぞれの実面積の合計を記入してください。
- ※5 ②の合計は、各用途の合計面積を記入してください。
- ※6 所要額欄の二重枠には、所要額の合計を記入してください。  
(注)用途ごとに「産地交付金の活用方法の明細(個票)」を添付してください。

#### 4. 追加配分を受けた場合の調整方法

そば団地化の取組を推進するため、整理番号1（そば団地化支援）に活用し、+1000円/10aを上限に充当する。

#### 5. 所要額が配分枠を超過した場合の調整方法

##### 1. 超過した場合の調整方法

- ・整理番号1（そば団地化支援）の単価を減額調整。

##### 2. 活用残額の調整の実施

- ・活用実績段階において、活用残額が発生した場合は、そば団地化の取組を推進するため、整理番号1（そば団地化支援）に活用し、上限単価まで調整する。

※調整後の単価は小数点以下切り捨てとする。

#### 6. 高収益作物について

注1 産地交付金で支援する作物のうち、高収益作物に該当する作物名（野菜、花き・花木、果樹除く）を記載してください。

注2 収益性のわかるデータを添付してください。